

# 「終わらない夏 2013 VI」

私たちは信じていた  
 今日のこの日が来ることを  
 私たちは信じていた  
 きっと来ると信じていた  
 先輩と同じ道を歩いていきたいと  
 スタートした私たちであったが  
 私たちが歩いてきた道のりは  
 すべて苦しかった  
 何度涙を流したか  
 何度悔しい気持ちになったか  
 負けた新人戦決勝フルセット  
 犬山駅まで

悔しさを噛みしめて歩いた冬の午後  
 自信をもつてのぞんだ春季大会の敗戦  
 何一つ先輩のようにはいかなかったが  
 すべて叶わなかった私たちが  
 なくさなかったものが一つ  
 何度負けても  
 希望をなくさなかったこと  
 何度つまずいても  
 お互いに向き合ったこと  
 25点目のコールが体育館に響く  
 歓声が体育館に響く  
 両手のこぶしを思いっきりつきあげた  
 満面笑みのハイタッチ  
 最後の最後でつかんだ28年目の海部地区優勝

